

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 7 日作成)

| | | |
|------------------------------|---|-------------------------------|
| 小委員会名 | 次世代排水システム小委員会 | 主 査 名：坂上恭助 就任年月：2012 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学委員会 (建築設備運営委員会) | 委員長名：佐土原 聡 主 査 名：羽山広文 |
| 設 置 期 間 | 2012 年 4 月 ～ 2015 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>従来の非満流重力排水システムの体系に組み込まれていない、小径排水システム(サイホン排水方式、圧送排水方式、真空排水方式)や自封式トラップの諸特性を評価し、適用性の拡大の方策を検討し、設計ガイドライン案を策定する。また、東日本大震災の経験を踏まえて、自立給排水設備の構築を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度：設計ガイドラインのフレーム作り。自立給排水設備の情報収集。 ・2年度：設計ガイドラインの素案を策定し、自立給排水設備の体系化を図る。 ・3年度：設計ガイドライン案を策定し、自立給排水設備の体系をまとめる。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：無 | |
| | 主査：坂上 恭助 (明治大学) 幹事：古賀 誉章 (東京大学), 丸山 秀行 (ブリヂストン) 委員：安孫子 義彦 (ジェス), 飯塚 宏 (日建設計), 石村 修一 (旭化成ホームズ), 門脇 耕三 (明治大), 小池 道広 (長谷工コーポレーション), 小寺 定典 (UR 都市機構), 佐野 武仁, 下田 邦雄 (給排水設備研究会), 須賀 良平 (クボタシーアイ), 高津 靖夫 (芝工業), 早川 和夫 (戸田建設) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | <ul style="list-style-type: none"> ・機械排水システム WG：機械排水システムの 設計ガイドライン案を作成する。 ・サイホン排水システム WG：サイホン排水システムの設計ガイドライン案作成。 ・次世代排水システム建築適用 WG：建築物への適用の可能性について検討する。 | |
| 2012 年度予算 | 90,000 円 | ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： |

| 項 目 | 自 己 評 価 |
|--|--|
| 委員会開催数 | 6 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small> | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 設計ガイドラインのフレーム作りを行った。 →達成度 100% 2. 自立給排水設備の情報収集を行った。 →達成度 80% 3. 次世代排水システムの建築適用可能性を整理した。 →達成度 70% |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 1. ガイドラインのフレームづくりに注力し、対外的な活動がなかった。 2. 各委員の作業に費やせる時間が限られており、進捗が難しかった。 3. 建築計画研究者・建築意匠設計者のさらなる参画が望まれる。 |

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。
- *

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

| | |
|---------------------------------|--|
| 総合評価 (4段階評価) | A |
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>2012年度の活動計画は、初年度として前小委員会の目標を引継ぎ、次世代排水システムの設計ガイドラインのフレーム作りを行うこと、東日本大震災の経験を踏まえて、自立給排水設備に関する情報収集を行うことであった。</p> <p>本小委員会の主目的である、設計ガイドラインのフレームについては、傘下の「機械排水システム WG」と「サイホン排水システム WG」において、それぞれの部分についてたたき台を作成し、それを小委員会に報告して議論することで、作業を進め、目標を100%達成できた。</p> <p>自立給排水設備については、各委員が普段の業務の中で気がついた設備等を小委員会およびWGにて報告し、情報の共有を図った。まだ事例が十分ではなく、考え方の整理まではできていないので、目標達成度は80%である。</p> <p>また、次世代排水システムの建築適用可能性については、「次世代排水システム建築適用 WG」において、設計者が要望する情報や条件について項目出しを行ったが、まだ議論を尽くすには至っていないので、目標達成度は70%程度である。</p> <p>以上、総合して、当小委員会の最大の目的である設計ガイドラインのフレーム作りについては順調に目標を達成しており、総合的な目標達成度は、90%程度とし、総合評価はAと自己評価した。</p> <p>来年度は、設計ガイドラインについて引き続き検討を進め、予定通り、フレームから素案策定を達成したい。また自立給排水設備・次世代排水システムの建築適用性についても、鋭意整理を行っていききたい。</p> |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。